

052 幸い(山上の説教Ⅱ)

マタイによる福音書 5 : 3～12、ルカ 6 : 20～26

▶八つの大切な教え (マタイによる福音書 5 : 3～12)

「03① **心の (→直訳 : 霊において) 貧しい人々**は、幸いである、／天の国はその人たちのものである。

→神のみに信頼を置き、自己の人間としての内面的貧しさに気付いている人々 ⇔ 傲慢な人々

04② **悲しむ人々**は、幸いである、／その人たちは慰められる。

→罪に対する感受性が豊かな人々

05③ **柔和な人々**は、幸いである、／その人たちは地を受け継ぐ。

→神の權威を認め、神への絶対的な信頼があり、神に従い、神の恵みによって生きている人々



06④ **義に飢え渴く (→義を行いたいと願う) 人々**は、幸いである、／その人たちは満たされる。

→聖い生活を渴望し、完全な基準に基づき生きたいと、靈的に飢え渴いている人々

07⑤ **憐れみ深い人々**は、幸いである、／その人たちは憐れみを受ける。

→他者の必要に敏感で、他者に目を向けることができる優しい人々

08⑥ **心の清い人々**は、幸いである、／その人たちは神を見る。

→信仰による救いの結果として、魂の奥底に真理が宿り、神に喜ばれる行動が取れる人々

09⑦ **平和を実現する人々**は、幸いである、／その人たちは神の子と呼ばれる。

10⑧ **義のために迫害される人々**は、幸いである、／天の国はその人たちのものである。

11 わたしのためにののしられ、迫害され、身に覚えのないことであらゆる悪口を浴びせられるとき、あなたがたは幸いである。12 喜びなさい。大いに喜びなさい。天には大きな報いがある。あなたがたより前の預言者たちも、同じように迫害されたのである。」

※注意 : ①～⑧の教えを実行することによって、義とされるのではない。

※ローマ書 7 章クリスチャン : 「肉の努力」に従って歩むクリスチャン

※ローマ書 8 章クリスチャン : 「聖霊の導き」に従って歩むクリスチャン

→ローマの信徒への手紙 8 : 3～4

肉の弱さのために律法がなしえなかったことを、神はしてくださったのです。つまり、罪を取り除くために御子を罪深い肉と同じ姿でこの世に送り、その肉において罪を罪として処断されたのです。それは、肉ではなく霊に従って歩むわたしたちの内に、律法の要求が満たされるためでした。